

森の再生 ～伊勢神宮の森を夢見て～

生態系を蘇らせる

ふるさとの木による
ふるさとの森づくり

Q1：森を再生するって
どんな森？

生物の多様性

A：伊勢神宮の森が手本です。

伊勢神宮森林部では、式年遷宮に使うヒノキを神宮の森で育てています。そこでは、ヒノキを育てるために、広葉樹も大切に育てています。目的とするヒノキだけでなく、多種類の樹木を共生させています。

Q2：なぜ、共生が
必要ですか？

エコロジーの脚本

A：森全体が健全な森になります。生物界の掟は、多様性です。さまざまな生物がお互いに生存競争しながら、全体として、健全に育っていきます。広葉樹と混在させることにより、植物が豊かなだけでなく、微生物、虫、鳥、動物など生き物で豊かな森になります。生態系が蘇り、死んだ森が生きた森になります。

さらに、広葉樹の根が大地をしっかりと押さえ、山崩れを防ぎます。広葉樹が落とす葉が腐葉土を作り保水力のある森にし、緑のダムをつくります。そして、川や海のいのちをも蘇らせます。

Q3：具体的にはどの
ようにつくりますか？

潜在自然植生

A：放置林になっているスギやヒノキの間伐を行います。太陽が差し込むと、土地本来の広葉樹が芽を出します。その広葉樹を大切に育てます。

森は緑のダム

永遠に継ぐ森づくり

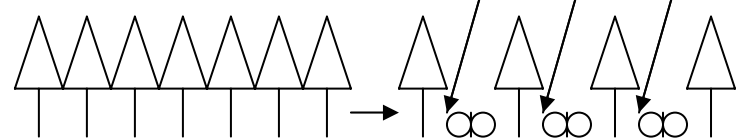
H12.9 東海豪雨のとき

伊勢神宮の森では、崖崩れが一ヶ所も起きませんでした。

伊勢神宮の森を水源とする五十鈴川は、氾濫しませんでした。

伊勢神宮の森が緑のダムの役割を果たしたのです。

間伐すると

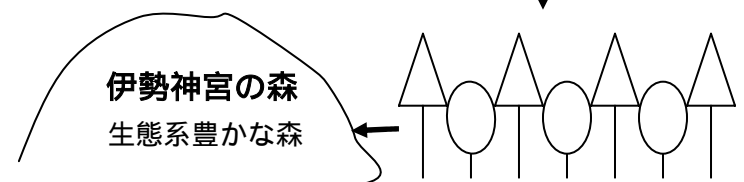


スギ・ヒノキの放置林

下草が生えない

間伐し日光を入れる

広葉樹が芽生える



伊勢神宮の森
生態系豊かな森

広葉樹・針葉樹の混合林

さらに詳しく知りたい方は、NHK テレビで放映された「伊勢神宮・永遠に継ぐ森づくり」をご覧ください。ビデオテープご希望の方は事務局へ。(電話：0563-54-1018 榊原和久迄)